

1 全国学力・学習状況調査
小・中共通

項目	課題	解決の方向性
国語	漢字を正しく書くこと。 文章を正しく読み取ること。 問題に正対して回答すること。	1年～5年までの漢字を繰り返し復習する。漢字小テストを活用するようにする。新聞などの文章を活用し、要約や題名を付ける活動を取り入れるようにする。常に、何についてきかかれているのか、題意を正しくくみ取る活動を繰り返し行うようにする。
	文章の要旨をまとめて書くこと。	文章を正しく読み取ることと同じように、新聞などの文章を活用し、要約や題名を付ける活動を取り入れるようにする。お話朝会などで聞いた話を文章にまとめるようにする。日記や小作文に恒常的に取り組むようにする。
算数（数学）	小数の問題を解くこと。 図形で角度を答えること。	小数の理解度について、再度学級全体で確認をした上で、必要に応じて宿題で課題を出したり、休み時間などを使って個別に対応する時間を設けたりする。ICTや実物模型等を活用し、視覚的に理解ができるように支援をする。図形の問題に慣れるように、補助プリントなどを用いて回数を確認するようにする。
	割合の問題を解くこと。 四捨五入についての理解。	数直線を用いて視覚的に理解できるように割合についての指導の工夫をする。また、数直線から式を導き出せるように繰り返し練習をする。日常生活での買い物などの様子を想起させるようにし「〇割引」などの実例を示すなど、実感する指導の工夫をする。4年生での学習を復習するとともに、四捨五入のやり方の型を示すようにする。また、どの位を四捨五入するのか間違えないように整理して指導するようにする。
理科	理科の用語についての理解。 グラフから事象を読み取ること。 天体に関する問題を解くこと。	教科書に出ている理科に関する用語を授業で確実に確認し、関連する場面では繰り返し意図的に取り上げるようにする。グラフの表し方や読み取りについて、実際に実験の結果をグラフ化する作業を取り入れたり、読み取りについて確認したりする場面を取り入れるようにする。天体に関する興味関心を高めるために、時事的な天文のニュースを掲示したり授業で取り上げたりして、知らせるようにする。
質問紙調査	朝食を毎日摂らない児童が多い。 人の話を最後まで聞くことができていない。 テレビ、ゲーム、携帯電話の時間が多い。 授業以外の勉強の時間が少ない。 読書量が少ない。 地域・社会に関心がない。 勉強が好きではない。 失敗をおそれ、挑戦しない傾向がある。	学校での指導を家庭に積極的に発信し、共に考える環境作りを心がけていくようにする。機会としてはPTA保護者会、学級懇談会、学級・学年通信、保護者面談期間などを有効に活用する。また、保護者への啓蒙を図る際にはテーマを決め、具体的に集中して行うようにする。全体の前で発表する機会を意図的に設けるとともに、十分な練習の時間を確保し、何事にも自信をもって取り組めるようにする。

2 埼玉県学力・学習状況調査

小学校

項目		課題	解決の方向性
国語	第4学年	話す力、聞く力、書く力が県・市平均と比較して10ポイント低い。 記述問題の正答率が低い。	言語環境の振り返り、言語に接する機会を意図的に増やすようにする。 文章を書く、自分の気持ちを伝える、読書をする時間を増やすようにする。
	第5学年	話す力、聞く力は県・市平均と比較して約5ポイント低い。 読む力、書く力は県・市平均と比較して約9ポイント低い。	校内研修での取組の一環として「学習用語」の活用する学年・単元を明確化するとともに、計画的に網羅できるようにし、着実な定着が図れるようにする。 家庭との連携を密にし、週末の家庭学習を充実させ、家庭学習の習慣化をはかるようにする。
	第6学年	読むことを苦手としている児童が多い。 書くことを苦手としている児童が多い。 記述式の問題の正答率が低い。	低学年の児童への読み聞かせを実施するなどして関心意欲を高めるようにする。 日記や小作文、卒業文集の作成などを通して、多くの作文を書かせ、添削をしていくようにする。
算数	第4学年	全体的に、市・県の平均を若干下回っている。 数学的な考え方に関するポイントが市の平均より若干下回っている。	基礎基本の徹底を図るようにし、授業の中で既習の学習事項の復習を取り入れながら授業を進めるようにする。
	第5学年	「数と計算」「量と測定」「図形」の正答率が低い。 「数学的な考え方」について、市・県の平均を約10ポイント下回っている。	学習課題の把握を明確にし、既習事項を使って個人で問題を解くこと、板書や発表を活用した集団での練り上げを授業で共通して展開する。 計算ドリルのさらなる活用（繰り返し取り組む、見直しの徹底など）と、見届けの徹底を図る。
	第6学年	学級によって、学習の定着に差がでている。	ITや少人数指導の活用をし、学年内での差が広がらないように留意する。
質問紙調査	授業開始時刻等を守ることが出来ない。 自尊感情がやや低い。 あいさつ、返事が苦手である。 話を聞き、考えを伝えることが苦手である。 学校生活に満足していない。 あまり家庭学習をしていない。 朝食を食べない割合が多い。	けじめのある生活を徹底する。生徒指導部がすすめる「宗小のやくそく」の活用を図る。 自分の得意なことや好きなことを続けることの大切さを伝えるとともに、教師として、得意なことや好きなことに出会える仕掛けを授業に組み込むように心がけていく。 あいさつの大切さを日常的に繰り返し伝えると共に、教師の期待を込めて、児童が自発的にあいさつをすることをあえて待つようにする。 理解することの楽しさをたくさん味わわせることが出来るように日々の授業改善を図るようにする。 家庭との連携を図り、家庭学習の内容を充実する。また、自主学習を活用し、家庭で自分の興味のある分野を学習する機会を作るようにする。 家庭への啓蒙を図る。日曜参観で朝食の大切さを考える講演会を実施する。	

3 具体的な改善に向けた学校としての取組

<学校としての改善策>

○学習面

どの学年においても、基礎基本の定着が図られていないことわかる結果となってしまっている。そのため、以下のような課題に対する手立てを講じるようにする。

・国語

「聞く・読む・話す・書く」全ての分野で底上げが必要である。特にその中でも「書く力」については早急な対応が必要である。しかしながら、それ以前の問題として、問題に正対して読み解くことができない実態があり、まず、正しく読み取る力を学校全体として改善していく必要がある。また、全体的に語彙力が大きく不足していることも課題となっている。読書量も少ないという質問紙の結果もあり、多方面からの地道な改善が必要である。

本校では、校内研修で「国語」に取り組んでいる。音読カードの統一や、授業の中で使う言葉の精選や、研究授業を通して授業改善を推進しているところである。辞書や読書カードの活用で語彙力を高めるとともに、小作文や日記で文章力を高めるように学校全体で取り組むようにしている。

・算数

文章題の正答率の低さから、国語での文章に正対して読み取る力を高めることに関連して、授業の中でも丁寧に扱うようにしていく。また、単元ごとに、学年間で指導方法について共通理解を図ることや、少人数指導を学年混合で行い、学級ごとに差がでてしまわないようにする。

計算力の向上を図るために、継続的に計算練習を繰り返すようにする。また授業の中で計算の習熟の時間を設け、確実な定着を図るようにする。

○質問紙より

朝食、ゲーム、家庭学習等は、家庭の協力なしには改善が難しい。積極的に学校での様子を家庭に知らせるようにしたり、家庭との信頼関係を構築できるように連絡を密に取るようにしたりして、学校、家庭が同一步調で児童の教育に取り組むことが出来るようにしていく。

児童自身の自尊感情を高めるために、学校生活が楽しく過ごせるように学級・学校全体で行事に取り組んだり、日々の授業の改善を図るようにしていく。また、全体の前で発表できる機会を意図的に多く設けるようにするとともに、そのための練習の時間を確保し、自信をもってそれらの活動に取り組めるようにしていく。